



定住対策に取組め

齋藤 公一 議員

町民のニーズに対応したい

町長



子育てしやすい住みやすい町に！

早急な対策を

年々人口が減少している現状。早急に効果的な定住対策を実施すべき。

町長 定住対策の一環としてNPO法人による新たな除雪支援制度を行った。子育て時期の医療費負担の軽減。保護者就労を支援するための(※)

※放課後子どもクラブ(子ども教室)

文部科学省所管 地域参加の社会事業。週一回平日夕方開催。学童保育とは別もの。

「放課後子どもクラブ」の開設をした。

定住対策として1300万円の予算があるが。

町長 町内に住宅を新築した方に町内外を問わず基本50万円を助成。建築主が50歳未満の方と町外の方なら30万円加算。町内の建築業者なら10万円加算。さらに義務教育の児童生徒がいるなら10万円加算。最高100万円の助成となる。今年度は13件分を予算化した。子育て世代の母親が集まる場所を。

町長 駅前のにぎわい拠点施設なども視野に入れ検討する。

空き家バンク

利活用が順調に進まないのは。

町長 実態調査報告書によれば現在利活用可能な空き家の所有者は67名いる。この方々に空き家バンク制度のパンフレットを送付し、登録勧奨を行った。結果として4件登録され1件の売買が成立し、ほか2件の商談交渉が進んでいる状況。

歩行者の安全を図れ

大橋、丹生川大橋の歩行者の安全を図れ。

町長 両橋とも歩道が設置されていない現状。大変危険な思いで通行しているかと思うが、県が管理している橋なので、どのような安全対策ができるか話し合いをしていく。



歩くのは危険(丹生川大橋)



危険空き家は撤去するのか

小玉 勇 議員

不足の事態になる前に判断する

町長

危険空き家

危険な空き家はいつ撤去するのか。

町長 平成26年4月条例施行から12件の指導・勧告を行った。また、本年は4件5名に雪下ろしの指導をした。なぜ撤去できないでいるのか。

町長 代執行の際は近隣の住民への危険度や交通への影響を判断し、住民への生命や財産への影響を考えねばならない。また解体費の回収のメドも重



問題解決はいつ？

要だ。町民の安全安心の観点から、危険空き家の実態に即して不測の事態になる前に的確に判断する。

ボランティア

買い物や病院への送迎はどのようにサポートするのか。

町長 生活支援サポートのためボランティア組織や制度づくりは可能で、時代の要請でもある。「自助・共助・公助」による支えあいが必要であり、現在「公助」として福祉

バスや高齢者タクシー制度がある。これで不足はないと考えるのか。

町長 十分であるとは思っていない。今後はみんなで助け合う「共助」の割合を多くできないかと思う。

今後どんなことを考えているのか。

町長 この冬、試験的に新たな除雪支援制度をNPO法人に依頼した。今年9月から社会福祉協議会が交流センター内に事務所を置き、役場と一体

となって福祉活動ができるようになる。きめ細やかな支援を行うため団体の育成、必要な制度づくりを社協と町が一体となって進めていく。

ボランティアによる雪下ろしはどう思うか。

町長 スノーバスターズ、町シルバー人材センター、NPO法人には、危険を伴うのでさせていない。雪克服は重要な課題でもあり「自助・共助・公助」を基本としつつ今後検討をしたい。



今年も大活躍!(スノーバスターズ)